

石と町とアタシと



～あきねえ便り～ 6月号

6月に入り、じめじめした梅雨の季節になりました。雨の日は気分も暗くなるし、お客様の出足も悪い。でもなぜか、霊園というところは、しとしと降る雨の季節が似合います。傘を差して、地元の猫に誘われながら、お散歩するのもいいですね。

こんにちは！アタシあきねえです♪

父を亡くした時、お寺のご住職に言われた言葉がきっかけになり、銀行員を辞めて「石材ケア」の道に。太い腕と、頑丈な体を武器に(！?)お墓の汚れと向き合う毎日を送っている。食べている時間が一番幸せ。3人のやんちゃな男の子の子育てに奮闘中！

TakeShoコミュニケーションズ(株)

〒338-0824

埼玉県さいたま市桜区上大久保 9-16

TEL 048-699-9731 FAX 048-699-9730

HP <http://www.takesho-com.jp/>

たけしょうで検索してください！

ついで、5月の案件です。

場所は、都内某霊園。



お客様が、お墓をスッキリできないかしら？と、霊園周辺のお花屋さんへご相談を持ちかけ、石屋さんとたけしょうでリフォームをすることになりました。

① 石塔・墓誌は新しくする。
② 植木を伐採し、灯籠をきれいに洗い、手前に移動。

③ 外柵は交換せず、洗う。
傷んでいない外柵や灯籠はそのまま活かすことで、石塔や墓誌に予算をかけることができました。

新しい石塔と古い部分とのバランスは、たけしょうが汚れを落とすことで解消。

仕上がりはご覧のとおり。比べて見て下さい！

限られた予算の中でも、お客様のこだわりや、ご要望を実現させることで、とても喜んでいただくことができました。

やはり、お客様が喜んでくださることが、何よりも嬉しいです♪

さあ雨にも負けずに、今月も洗って洗って洗いまくりませよ！



施工前



施工後

霊園でぶらぶら

あたしはある方のお墓の前に立っていました。何を見ているのかって…いつもその霊園ならではの汚れを見ているのですが…戦前に建てられ、そこには〇〇の像と書いてありました。お墓にしては、変な形です。そう、お墓ではなかった。それは台座でした。戦時中その上にあつた銅像が持っていかれ、台座だけ残されているのです。

よくあるんです。いまだに戦争の傷跡が。外柵の鉄の柵や扉だけ持っていかれたお墓。故人の為に建てたお墓の鉄柱を、国が誰かの命を奪う鉄の玉に変えるため奪うなんて…。そんな時代があつたこと、お墓を洗うようになってから、この目で見て感じます。傷跡と汚れ…

そんなアタシに、話しかけてきた老紳士がいました。彼は、16歳の時、特攻隊訓練所にいたそうです。あと半年戦争が長引けば、特攻隊員として戦死していました…と話してくれました。お兄さんはその時亡くなり、当時、自分は兄の無念をはらすために戦って死ぬんだと思ひ疑わなかったが…

その後、兄の無念をはらすために生きる決意したそうです。

しばらくお墓の前で、二人で話していました。

生かされた命。そんな事実を伝えることが、貴方の使命ですか？

とても素敵な方との出逢いでした。

石材ケア
たけしょう



←谷中猫(本物)

